arcserve® Unified Data Protection 仮想化ソリューションの概要

ほとんどの企業や組織では、サーバとデスクトップの仮想化が広がっています。サーバの仮想化によってコストの削減や柔軟性の向上など多くのメリットがもたらされることに、議論の余地はありません。サーバの仮想化により、IT インフラストラクチャのコストを削減できる一方で、仮想マシンにインストールされる多様なアプリケーションの保護が複雑になり、共有ストレージ デバイス上に作成されるデータが増大し続けるという問題も生じます。しかし、サーバの仮想化は、災害復旧シナリオにも有用であり、ある程度の高可用性も実現できます。

この明らかな矛盾を解消すれば、サービスレベルの向上を実現でき、特にシステムとデータの復旧に関するメトリクスをより的確に制御できるようになります。そのためには、ユーザが仮想化の導入による運用上の影響を正しく理解する必要があります。その重要な第一歩は、データ保護のために適切なアプローチと技術を採用することです。

解決策は、別のポイント ソリューションやベンダを追加して複雑にすることではなく、仮想 / 物理を含むインフラストラクチャ全体におけるデータ保護を総合的かつ統一的に把握することです。

arcserve® Unified Data Protection の概要

arcserve UDP（Unified Data Protection）は、次世代の統合型アーキテクチャに基づいた比類のない使いやすさで、仮想環境と物理環境に対応した包括的な Assured Recovery ™を提供します。この機能豊富なソリューションを使用すれば、組織が簡単に IT 環境を拡張できるうえに、オンプレミス、オフプレミス、またはクラウドにおける目標復旧ポイント（RPO）と目標復旧時間（RTO）も達成できます。従来の過度に複雑なバックアップ ポリシーに代わる現代的なタスクベースのバックアップ プランハイパーバイザとの緊密な統合により、複雑で日常的な反復作業を完全に自動化できます。

arcserve UDP は、業界で認められたバックアップ、レプリケーション、HA（ハイアベイラビリティ）、バックアップ サーバ全体の重複排除技術を 1 つのソリューションにまとめた最初のソリューションであり、競合他社の製品とは違って高価な導入支援サービスを必要としません。

arcserve® UDP の差別化要因

幅広い機能を備えた統合ソリューション	イメージ バックアップ、HA（ハイアベイラビリティ）、テープ、クラウド、仮想、物理、バックアップ サーバ全体の重複排除 1つのUIで操作でき、中核となるデータ保護技術がすべて1つのソリューションに統合されている
使いやすさ	導入後すぐに使える、ウィザードを活用したエンタープライズ クラスの保護（エンドツーエンドのお客様体験が向上） 保護計画 購入、導入、ライセンス登録、構成
自動復旧テストによる復旧時点および復旧時間の検証	復旧時間と復旧時点の検証 システム全体の高可用性を実現する自動復旧テスト 自動的な仮想スタンバイ レポートとログ
サービス プロバイダに適した機能	MSP機能 文書化されたAPIとログ スキーマ MSPパートナー プログラム

VMware、Hyper-V ホスト環境用の高速かつシンプルなエージェントレス バックアップ

arcserve UDP は、データ保護を簡単かつ効率的に改善するための幅広い機能を備えています。

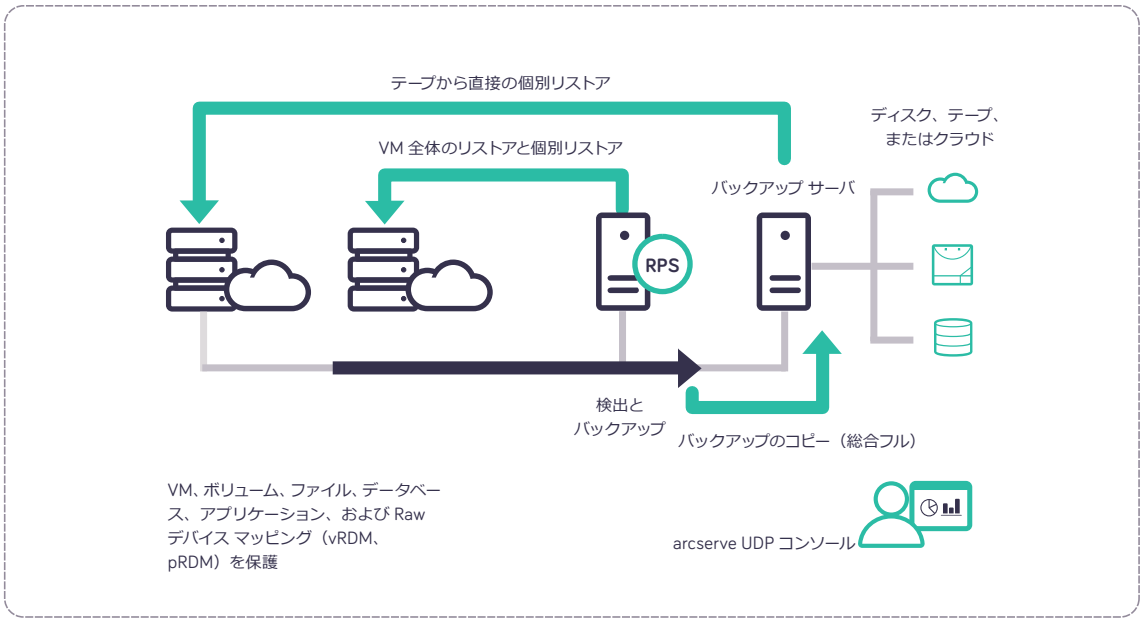
- 各 VM にソフトウェア エージェントをインストールする必要のない、全 VM のシングルパス バックアップ
- 保護対象の仮想ホスト上の VM を自動検出
- VMware vStorage API との統合
- 変更されたブロックのみをバックアップ
- アプリケーション レベル（Exchange、SQL など）での一貫性とトランザクション ログの消去
- 各 VM 内での個々のファイルおよびフォルダの復旧が簡単
- arcserve UDP コンソールからのノード、グループ、および計画の一元管理

VMware、Hyper-V 用のホストベース バックアップ

ホストベース / エージェントレス バックアップ プロキシ技術により、各 VM にソフトウェア エージェントをインストールしなくとも、すべての Windows VM、Windows 以外の VM のシングルパス バックアップが可能です。

Microsoft Hyper-V 環境の場合、仮想マシンの仮想ディスク ファイルに対する変更を追跡する新たな変更ブロック追跡メカニズムが arcserve UDP に導入されました。変更されたブロックの追跡により、仮想ディスク内の変更または使用されたブロックのみが実際に読み取られることになるため、パフォーマンスが大幅に向上し、全体的なストレージ要件が低減します。さらに、arcserve UDP では、ファイル システムおよびアプリケーション レベルで一貫したバックアップを実現するために、VSS スナップショット技術が活用されています。その結果、バックアップ セッションのフォーマットは、VMware 仮想マシンの arcserve UDP クライアント バックアップおよびホストベース バックアップと同一になります。

VMware、Hyper-V 用のエージェントレス バックアップ



高可用性機能

arcserve UDP は、ローカルおよび仮想リモート スタンバイ機能の活用により RPO および RTO を従来のバックアップ技術より短縮できるだけでなく、仮想システムと物理システムの両方に対して優れた高可用性ソリューションも提供します。

移行機能

多くの場合、移行の際には運用上の課題や複雑さが生じます。arcserve UDP とその高可用性機能、ハイパーバイザ対応機能を使用すれば、移行を社内で実施する場合でもサービス プロバイダとして実施する場合でも、多くの組み合わせが可能です。対応する環境と移行事例には、次のものが含まれます。

- 物理システムから物理システムへ (P2P)
- 物理から仮想へ (P2V)
- 仮想から物理へ (V2P)
- 仮想から仮想へ(V2V) (ハイパーバイザ間の移行を含む)。この機能を使用すると、サポートされているハイパーバイザの 1 つから別のハイパーバイザへシステムを簡単に移行できます。

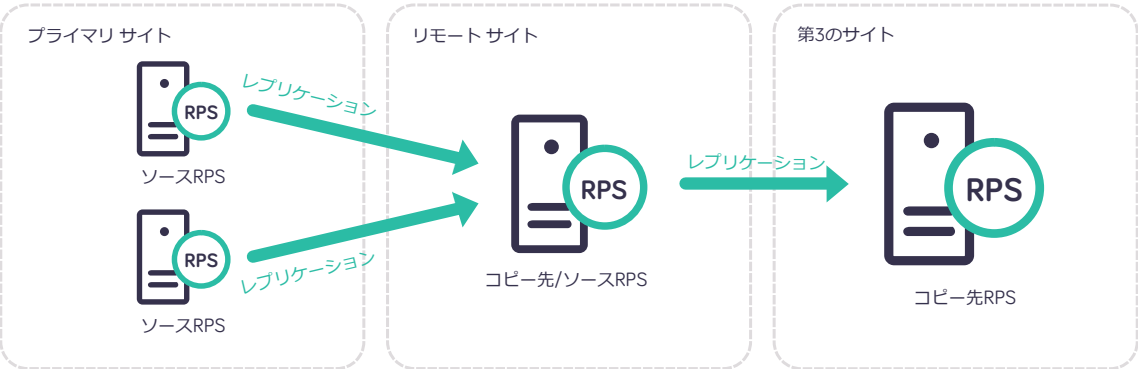
システム全体の高可用性

- arcserve UDP コンソールとの統合
- Windows、Linux のシステム全体 (OS、アプリケーション、データ) を保護
- 継続的なシステム全体のレプリケーションにより、ビジネス アプリケーション、ファイル、データを含むシステム全体のスタンバイ復旧が可能
- 自動化された DR テスト、プッシュ ボタン式のフェイルオーバ / フェイルバック、またはその両方
- リモート サイトのための WAN 用に最適化されたレプリケーションとオフライン同期
- 豊富な移行機能 (上記を参照)
- DAS、SAN、NAS、およびクラウド ストレージをサポート

その他の機能

- Windows 以外の VM の保護
- 電源の入っていない VM のバックアップと、UAC が有効な場合のシングルパス バックアップ
- vDS VLAN
- スナップショットを使った VM の保護

システム全体の高可用性 / フェイルオーバ



重要な機能 : 自動復旧テスト

arcserve UDP は、業務の中断が不要な自動化された一連の機能により PRO と RTO をテストおよび測定できるというユニークな機能を備えています。目標の代わりに実際の数値（回復検証基準）を使用して、インフラストラクチャを積極的に管理できるようになりました。

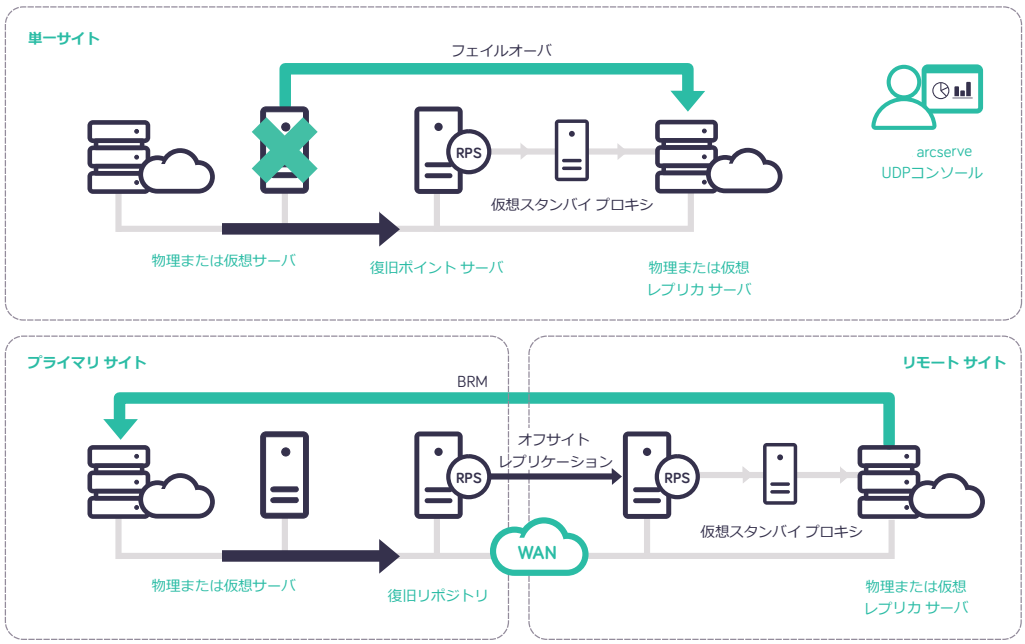
- 基幹システム、アプリケーション、データの自動復旧テストを独立のレプリカ サーバで実行できます。
- 業務の中断が不要なプロセスなので、業務の停止と本番システムへの影響を回避できます。
- 必要に応じて、復旧テストを完全に自動化する（スケジュールに従って実行する）ことができます。
- Assured Recovery のレポートでは、コンプライアンス監査担当者のために、システムの復旧可能性の証拠が示されます。

ローカルおよびリモート仮想スタンバイ

arcserve UDP を使用すれば、ローカルでもリモートでも RPO と RTO を改善できます。

- Windows サーバ、VM のシステム、アプリケーション、データの定期的なイメージベースの保護
- リモートの保存場所（リモート オフィス、DR サイト、MSP、クラウド）へのレプリケーション
- リモートサイトでの仮想サーバへの、復旧ポイントの VHD または VMDK 形式への変換
- ハイパーバイザへの登録
- サーバのハートビートの監視
- リモート リソースへの手動フェイルオーバ

RPS を使用したローカルおよびリモート仮想スタンバイ



arcserve

UNIFIED DATA PROTECTION

NEW ARCSERVE UDP - 物理環境と仮想環境全体でのデータ保護の統一に次世代アーキテクチャの使用を考える必要はありません。ARCSERVE UDP のエンタープライズ規模の機能によってどのように目標復旧時点（RPO）と目標復旧時間（RTO）の設定、テスト、改善が可能であるのかを検討する必要もありません。もちろん、その画期的な使いやすさについて考える必要もありません。すべてが連携して機能し、安心の自動復旧テストが実現されていることをご覧ください。

arcserve UDP の詳細については、arcserve.com/jp をご覧ください。

Copyright © 2014 arcserve, LLC. All rights reserved.

Microsoft、Hyper-V、および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。本書に記載の他のすべての商標、商号、サービス マーク、ロゴは、該当する各社に帰属しています。本文書は情報提供のみを目的としています。本文書に含まれる情報の正確性または完全性について 一切の責任を負いません。本書は、当該の法律で認められる範囲で 現状のまま」提供するものであり、いかなる種類の保証も伴いません。これには、特定の目的に対する市場性または適合性、非違法性についての黙示の保証が含まれますが、これに限定されるものではありません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、業務情報の損失等、いかなる損失または損害が発生しても、 一切責任を負いません。 かかる損害の可能性について明示的にあらかじめ通告されていた場合も同様とします。